

令和8年度地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業 応募用紙

1. おかやま元気！集落名及び集落代表者

集落名	オオハガ タキノウ ジチ キョウギカイ 大枳和多機能自治協議会	代表者	岡崎 章
-----	------------------------------------	-----	------

2. 集落の現在の状況・課題

過疎高齢化、人口減少により耕作放棄地が年々増加し、地域資源である「つなぐ棚田遺産」等の景観が失われつつある。また、祭り等の伝統文化や地域活動の担い手が不足している。令和6年に大枳和多機能自治協議会が発足し、住民が主体となって地域課題に対する新たな取組みを始めたところであるが、活動を推進し持続させていくためにも若い世代の力を必要としている。

3. 大学からの企画・立案を受けて取り組みたい事業内容について、①現状について(課題感など)、②最終的に達成したい目標、③「②最終的に達成したい目標」を達成するために令和8年度に集落として取り組みたいことをそれぞれ記入してください。

【取り組みたい事業内容】

1) 里山における生物多様性の保全維持活動の一環としての生き物調査
または
2) 「アマンジャクの重岩」等の史跡や文化財の保全および大枳和の歴史調査

①現状について(課題感など)

1) 棚田を含む流域の視点で里山の環境整備を行っている。生物多様性の保全維持の観点から、環境整備と併せて生き物調査(指標種「セトウチサンショウウオ、ササユリ、ブッポウソウ」)を始めているが、専門性に乏しく、調査データの整理・分析、大枳和の自然環境の特性把握や可視化が今後の課題である。

2) 担い手不足により「アマンジャクの重岩」等の保全活動ができていない。大枳和の豊かな地域資源を活かし伝承していくためにも、文化財の保全や歴史調査等を様々な角度から専門性を持って取組み、資料等にまとめることが必要である。

②最終的に達成したい目標

1) 2) 大枳和の豊かな地域資源を根拠をもって説明できるようになる。
資料やデータ等にまとめ次世代に伝えていく。
地域資源の保全や調査活動を持続できる体制づくりや仕組みの構築。

③「②最終的に達成したい目標」を達成するために令和8年度に集落として取り組みたいこと

1) 生き物調査 セトウチサンショウウオ → 卵塊調査、幼生調査、産卵場所の整備など
ササユリ → 保全手法の勉強会、開花調査、自生地調査など
ブッポウソウ → 保全手法の勉強会、巣箱管理状況調査など

2) アマンジャクの重岩の周辺整備

4. 3.での回答を踏まえて、若い視点や発想を持った学生と専門的な知識を持った大学の教員に、どのように集落や事業内容に関わってほしいか記入してください。

1) 2) ともに専門的立場から活動への助言や伴走をしてほしい。
学生には、イベントとして単発での参加ではなく、活動を持続化する仕組みづくりや長期的な計画策定といった面でも一緒に考えアイデアを出してほしい。生き物調査は子どもたちとの自然観察会も兼ねて行っており、地域住民や子どもたちと交流しながら、大枳和の地域資源の豊かさを感じてもらえる運営を一緒に考えてほしい。

5. 連携を希望する大学があれば記入してください。(指定が無い場合は、公募となります。)

大学名		研究室名	
-----	--	------	--

6. 市町村連絡先

市町村名	美咲町	所属・役職・氏名	地域みらい課 副参事 宗近由利
電話番号(直通)	0868-66-1191	E-mail	hiiki-mirai@town.okayama-misaki.l